

科目ナンバリング		U-LAS01 20008 SJ38							
授業科目名 <英訳>		日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナール Introductory Seminar on Politics and Culture in Ancient and Medieval Japan I				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉江 崇	
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)		歴史・文明(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	金5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
<p>【日本古代史研究書入門 - 政治・制度】</p> <p>1冊の研究書を受講者全員で輪読し、日本の政治・制度に対する歴史的思考力を高めることを目指す。大学生や一般の人を読者層として想定した、簡易で比較的新しい書籍を取り上げるが、記述の背景を調べ、根拠となっている文献史料の原典を読解することによって、記述内容を批判的に検証する。そうした作業を通じて、歴史に対する思考力・感覚・想像力を磨くことを目指す。</p> <p>今期は、瀧浪貞子著『桓武天皇』を取り上げ、桓武天皇という一人の人物に焦点をあてながら、8世紀後半から9世紀初頭の日本古代の政治動向を考える。</p>									
【到達目標】									
古代・中世の日本の歴史に関して正確で幅広い知識を獲得するとともに、文献史料の原典を自分の力で読解し、提示された学説を吟味して、自分の見解を対置する能力や、歴史像を組み立てるための技術を身につける。									
【授業計画と内容】									
平城京から長岡京・平安京への遷都を行い、新たな時代を開いた桓武天皇は、光仁天皇の第一子として誕生した。称徳天皇の構想によって擁立された光仁天皇は、即位後、他戸親王を皇太子とするも、藤原百川の「奇計」によって山部親王(桓武天皇)が皇太子となった。天武天皇系(聖武天皇系)の皇統であると自覚する桓武天皇は、自らの正統性を誇示し、専制君主として君臨するために、「歴代遷宮」の故実にならって、平城棄都=長岡遷都を実施した。桓武天皇の正統性を補完したのが同母弟早良親王の立太子だったが、皇太弟の存在はかつての壬申の乱を想起させ、桓武天皇は早良親王を抹殺することとなる。皇統意識に代え、ミウチ意識を強化していった桓武天皇は、その後、平安遷都、東北経営、遣唐使派遣、続日本紀編纂などを行い、806年に70歳の生涯を閉じた。瀧浪貞子著『桓武天皇』を輪読しながら、8世紀後半から9世紀初頭の日本古代の政治動向を、桓武天皇という一人の人物に焦点をあてながら把握する。あわせて、根拠とされる資料を分析し、内容の可否を検討する。									
第1回 イントロダクション 第2回 はじめに/ルーツ 第3回 皇位への道 第4回 桓武天皇の登場 第5回 平安朝の“壬申の乱” (1) - 前半部 第6回 平安朝の“壬申の乱” (2) - 後半部 第7回 神になった光仁天皇(1) - 前半部 第8回 神になった光仁天皇(2) - 後半部 第9回 帝王の都(1) - 前半部 第10回 帝王の都(2) - 後半部 第11回 政治に励み、文華を好まず(1) - 前半部 第12回 政治に励み、文華を好まず(2) - 後半部									
----- 日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナール (2)へ続く -----									

日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナール (2)

第13回 桓武天皇の原点

第14回 総括

《期末試験》

第15回 フィードバック

上記の各回の内容は取り上げる書籍の目次による。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での報告および発言・50点）と期末試験（レポート・50点）の合計で成績評価する。

【教科書】

瀧浪貞子 『桓武天皇 - 決断する君主』（岩波新書）ISBN:978-4-00-431983-2（2023年刊行、1060円＋税）

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

全体の進行をあらかじめ通知するので、各回の輪読箇所を読み、授業内容を想定しながら予習をすること。

【その他（オフィスアワー等）】

授業はゼミ形式で、発表および質疑への参加が必須である。

1人1回以上の発表を課すことから、履修者の人数制限を実施する。

【主要授業科目（学部・学科名）】